

手先の動きと子どもの感情②



清水エミ子

一、心の動きをすなおに表現してくれる手と指

ことばや、顔の表情より早く心を表現してくれるのが指ではないでしょうか。

①転んで、すりきずを作って、起き上がったじゅんいち「こんななのいたくないよ、へいちゃらだい」といいながら、笑って立ちあがって歩き出したのです。

しかし、手はギュッと握りしめ、げんこつが、固く固くすりむいた足のものにつけられているのです。

②「この四にんのなかでだれがいちばんつよいかなあ」とげんじがきくと、「ぼくだよ、ぜったいまけないよ」とひではるは答えました。

「そんなら げんこつでぶたれてもへいきかかえ」とたかみつがつめよりました。

「へいきき、げんこつなんか、ぼくいしあたまなんだぞ」とひではるはいいながら、片手で頭をなぜ、笑い顔をしていましたが、片手はいつでも手が出せるように、手の平をひろげて、おなかの前に構えてあったのです。

たかみつが「そんならやってみるぞ」というなりげんこつをふり上げたたん、ひではるのかまえていた手が、おでこのへんまです上がっていたのです。手の平は、力を入れてパッとひろげられ

ていたのです。

（イ）先生が「これほしい人にあげましようか」と一枚しかないクレープ紙の端切れを見せた。四、五名の女児が欲しいと手をあげたら、「じゃんけんで、かった人にすれば」とひとりがあった。すると、「あたしそんなのいらない、たいした紙じゃないもの」とみゆきが口をとがらせていったのです。

それで、えつこがもろうことになり、先生がえつこにクレープ紙を渡そうとしたとき、みゆきの手を見ていると、片一方は机の端をしっかりと握り、片一方は、何となく先生の方に差し出しているのです。これは、もしかしたら偶然なかもしれないと思っ
て見ていたのですが、しばらくすると、えつこがその紙をいじって
いる机に、みゆきも近づいていって、「さわらせて」といって
いたので、片方の手が前に出て来たのは、「わたしも欲しい」とい
う心の表われを、ことばや行動より早く表わしていたことがうな
ずけたのです。

このように、顔の表情、ことばでの表現に加えて手の動き、指の動きを見ていると、子どもたちは、口や行動ではこういっているけれど、本当は、こうなのではないだろうか、心をよみとる手助けになって行くのです。

みゆきに「あなた、えつこちゃん少しわけてくださいなっていたのんでみれば」とことばをかけてみた。すると、えつこが「少し

あげる」と良い返事をしてくれたので、みゆきは、にこにこしながら、「これくらいくれる」と、指で欲しい広さを示していたのです。

「だめよ、そんなにいっぱい、このくらいよ」と、えつこにいわれ、みゆきは、手をひっこめ、机によりかかり、胸のところを指をもて遊びながら、えつこが、クレープ紙を切るのをまっていたのです。

それから二人はブランコに乗るにも、帰る仕度をするのにも、いっしょにいたようでした。

二、困ってしまうと、動かなくなる指

いやになったり困ったなと思うと指の方が先に動かなくなった
り動きがぶくなくなってしまうようです。

(イ)「もう残してもいいでしょ」とべそをかきながら、お弁当箱を持って来たので、見るとほんの上面をつついてあるだけで、ほとんど食べていないのです。

「どうしたの、お腹が痛いの」と聞いてみたが、違うという。ゆっくり話を聞いてみると「あのね、指がくたびれちゃったの」というのです。

「どうしてかしら、ぶつけたの」と聞くと、「ちがうの、きょうこっちの指、朝から動きにくいよ」といって、反対の左の手

で右の指を、つつみ込んで悲しそうな顔をしたのです。

私はそうかと気づいたので、「お母さんが、朝、右の手で食べなさいといったのね」と、顔をのぞき込むと、「そうなの、でもきょうこっちの右の指、だめなんだから、くたびれちゃったの」と溜息をついたのです。

この話を聞いていたまわりの子どもたちは、「まちこちゃんこっちの手(右)で食べようとするとき、はしをくるくるくるくるまわしてもってから食べるから、くたびれるんじゃないの」

「よく使えるこっちの手(左)だと、なんにもしないで食べはじめると」と、くちぐちにその状態を教えてくれたのです。

左ききを右ききになおしたいお母さんが、幼稚園の門で子どもと別れるとき、「きょうはこっちの手で食べるんですよ」と強くいったので、いやだな、食べにくいな、と思ったとたん、指は動きにくくなり、硬直してしまつて、絵を描くのも、何かしてあそぶのも、ぎこちなくなつてしまつたのです。

こまつたな、いやだな、と思うと手がいろいろに反応するようになります。

「こっちの手(右手)っていうと、高い所や、低い所や、いろいろの所をもっちゃうの。それで、ここにしようって、あとで決めるんだよ」この子も左ききなのです。入園当初ははきみもよく使えなかつたのです。

「あの人ののはしの持ち方とってもへん。指がみんなかたく見える。まりちゃんのはへんでないから、やわらかく見えるじゃない。どうしてなの、ぼくのは、どんなに見えるのかなあー」

中指のはしの置き場所をちがえて持つて、食べている子のようすを見ていた子が、いつていたことばです。

食べにくいので、緊張して堅くなつていゝのです。指がいやだといつていゝので、堅く動きにくくなつてしまふのではないですよか。

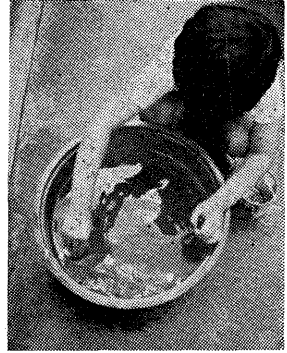
この子の食べ方は、おかずは、はしをブスツとつきさして食べ、ご飯は、口をお弁当箱にくつつけて、かっこみ食べをしていゝのです。はしがよく動かないからなのです。

(四) 年よりに育てられ、きたないものはさわつてはだめだといわれたり、病弱のため、他の子と同じようにかけまわる外遊びの経験も少なくて入園してきた明君は、砂場の砂に指をつこんだら指がまがらなくなつてしまつたらしく、片方のあいていゝ手の平で、そつとつつみこんで溜息をついて、すぐに水道で洗つていたので。

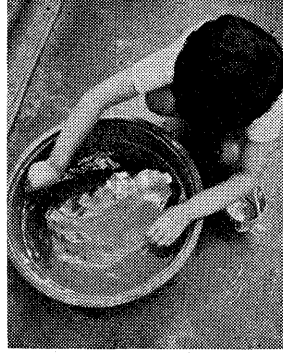
それからは「お砂しない？」ときそつても、「いいのぼくきらい」といつて手の指を五本ちゃんと揃えて、体の横でそりかえらせて困つていたので。

その明君が、プール開きで、どじょうつかみをしたときです。

①



②



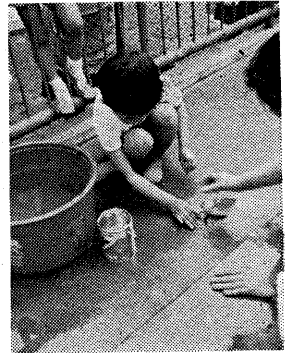
③



(写真①～③)のようにつかもうとする意志は、強くあるのですがどじょうが、ぬるぬるして、気が悪いので、いやなのです。そのために指がいうことをきかなくなってしまうので、とうとう最後まで、どじょうはつかめずじまいでした。

この明君とどじょうとのふれ合い(指や手)を観察していると、さわらなければと努力する意志の働きより、いやだ、こわい、と思う心の動きの方が指を堅く動かなくしてしまっているようです。

④



⑤



⑥

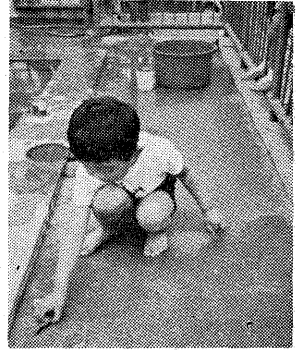


私が明君の手をそっとつつむようにしてどじょうを追いかけても私の手の平の中で、堅くこわばっているのです。

しかし、写真の流れでもわかるように、時間のたつと、繰り返して指とどじょうをくっつけていくことで、だんだん指の堅さ、いやだという拒否の表情(指や手)は、やわらいでいったのです。

三、活動に使っている手より、活動していない手や指が、心を表わしているようです。

⑦



心の動きがあると、
両手を活動させていた
ときでも、片手を止め
て片手で表現をしてい
るようです。

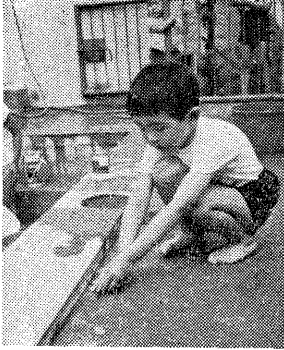
(イ) 写真⑩ いもほ

⑧



りにいったいも畑で、
友だちが、キチキチバ
ッタをつかまえて私に
見せてよろこんでいる
のをそばで見ている
から君（シャベルを胸
にあてている子）は、は
じめ片手にシャベル、
片手にいもを入れる袋
を持っていたのです。

⑨



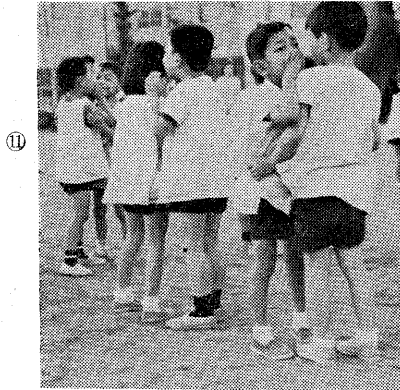
「つかまえた、こんな
大きなバッタ」という
友だちの声を聞くと同
時に袋をシャベルを持
っていた手にうつし、

⑩



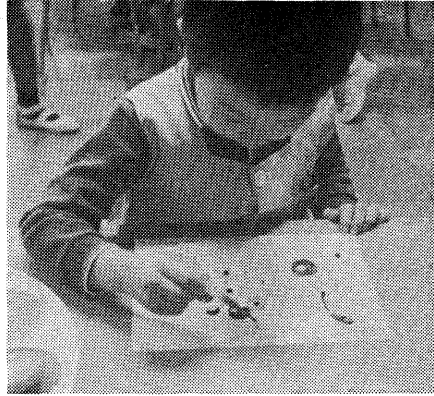
片手の親指をギュッと
中指で握りしめてから
「あつ、つかまえたか
ったなあー」といった
のです。ほしくてほし
くて仕方がない、友だ
ちに先を越されたくや
しさを片手で表現して
いたのです。

(ロ) 写真⑪ 園庭で



ことのない清一君
（右の背中をみせてい
る子）は、知らない、
今まで交わったこと
のない友だちとくむよ
うになると、両手を使わ
なくてはいけないの
に、片手で、ギュッと
相手の園児服を握りし
めてしまっているのだ

⑫

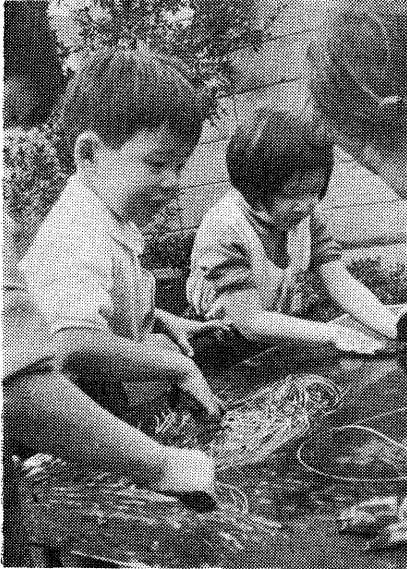


す。

この清一君は交友関係の少なさ、交わりのこわさを、片手で相手を握りしめることで表現しているのです。そして片手はリズム表現に使っているのです。ゆっくり動いているのです。

(イ) 写真⑫は、スポ

⑬



イトで、絵を描いているところだす。

「紙をおさえましょう」とも何ともいわないで活動にうつったのですが、片手でしっかり紙と机を握っています。そして、片手でスポイトの頭を、かげんしながら押して、絵具の出かげんを調節しているのです。

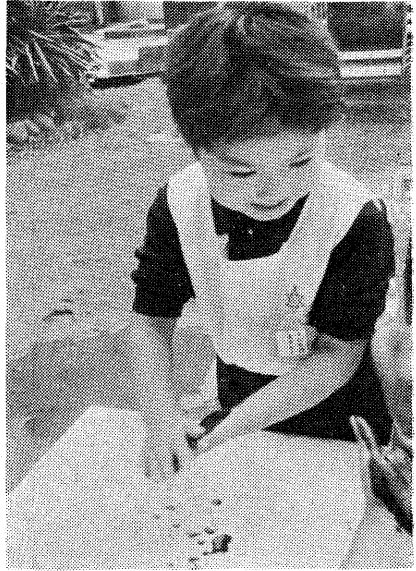
はじめての活動の不安が、片手の机の握り方、上から力を入れて、紙といっしょにおさえつけている表情がはっきりわかります。それに比べ、スポイトを持っている指や手は、たいへん柔らかな表情になっていることを、よみとったのです。

⑬はフィンガーペインティングです。

フィンガーペインメントの片手も同じです。

このように、子どもたちの活動をながめるとき、活動している手先や、体全体を見つめるのと同時に、あいている手や指、直接活動をしていないときの手や指の表情を、よみとることを大切にしないと、正しい指導や助言ができないと、つくづく感じさせられたのです。

(動いている手よりあいている方を先に見てから、動かしている活動の手を見ても遅くないと思うのです。かえってその方が、正しく子どもたちの心をよみとることができるといってもよいのではないかとさえ思えるのです)



四、安定していくまでに、いろいろの段階を追って
いきます。手や指の表情も、心の安定と共に、
落ち着き、楽な表情になって行きます。

(1)写真⑭(1) (フィンガーペインティング)

子どもたちは汚れることは好きですが、汚れに入るときにいろいろな心が動くようです。

砂場に分分から進んで飛び込んで行った子どもでも、砂のいじりはじめは、いろいろな表情で、緊張したり、不安がったりしてから、砂にちょう戦していくようになるようです。フィンガーペインティングでもそれと同じことが、はっきり表現されたようです。

はじめは手の先だけ、手の平をそっとのせてみる、のっそりのっそり手を、指を動かしている。

これも、絵具で、手が汚れて行く汚れの度合といっしょに、安心し、積極的に絵具で手を汚すようになっていきます。

手の平や、指だけで足りなくなり、写真⑮のように手の甲にまで、絵具を塗りつけてもう大丈夫だということを表現しています。

他の子どもたちの手より、楽に机の上に指を揃えてのせているのを見てもわかります。写真⑯でもわかるように、汚れの程度



⑯



と、指の緊張の強さが関係していることが表われているようです。

写真⑯をみると、机の上でちょちょやっているのではもの足りなくなつて、土に水を加えてどろんこをかきまわしだしたのです。

この時は、手全体が、全く満足しきっています。

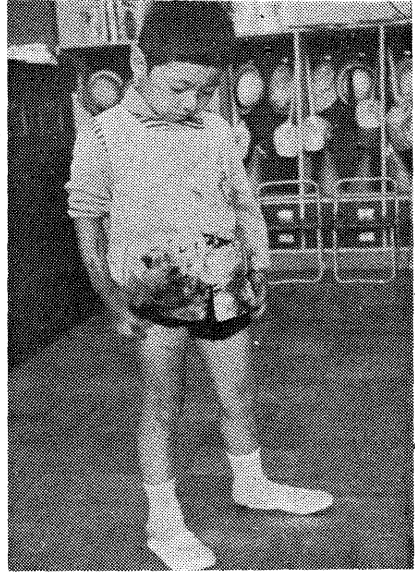
これはあとで、十数名が集まって、どろんここねをはじめたのです。みな、のびのびゆっくりとした表情で、土をかきまわしていました。

⑰



⑱





土をビチャビチャたたいている時の手首はゴムの手首かと思えるほどのんびりとたたいていたし、はずんでいました。

さて、⑯の写真ですが、遊び終わって、汚してはいけないところが、汚れてしまったことに気づいた時、また、指や手は、少し緊張をはじめます。

このように、子どもたちの指や、手の動きをじっとみていると、「そうかそうか」といっしょにうなずいてあげたくなるように、素直な心そのままに表現しているのに驚かされます。

洋服を汚してしまったやすはる君に、「だいじょうぶよ、幼稚園の洋服と取りかえてあげるわよ」と声をかけたたん、手をパツとひろげて「うん、こんなに なっちゃったんだもの、ぼくあら

ってくるね」と楽な指の表情になっていったのです。

誌面の都合で、女の子の状態を記すことができなかったのですが、男児とは少し違う表現があるようです。やはり手や指の動きだけでも男女差も性格的差も、はっきりわかってくるように思えてきたのです。

しかしまだまだ事例が少ないので、これからもっともつといういろの場や活動で、子どもたちの手や指を見つめて、心の動きをまちがいに、つかみとる手だてにしたいと考えます。

よっちゃんといっしょにやると 手がくたびれないけど
あのひととやると手がいたくなる。

だから せんせい ぼくよっちゃんとかましてよね。

(えいじ)

しらないこと やりなさいって せんせいがいうと
ぼく ゆびがくすぐったくなるよ。

へんなきもちになるの どうしてかなあ。

(はらだ)

あたし はいってへんじしようとおもうと

手がすぐおもたみたいいな へんなきもちになるときあるよ。あんなならない。

(えつこ)

(大田区立蒲田幼稚園)